

イカ類漁海況情報収集・提供事業（要約）

三浦太智

目 的

スルメイカ、アカイカの分布・回遊、漁況等の調査結果を、漁業関係者に提供し、効率的な操業の一助とし、漁業経営の安定、向上に資する。

材料と方法

1. 学習会の開催

漁業者を対象とした学習会の開催等により、スルメイカ、アカイカに関する前漁期の状況、本県漁期前の情報を発信した。

2. 漁獲動向調査

日本海側は小泊、下前、鯨ヶ沢、深浦の4港、津軽海峡側は大畑港、太平洋側は白糠、八戸の2港をそれぞれの海域の主要港とし、各海域におけるスルメイカの月別漁獲量を調べ、経年比較し、動向の変化を把握した。

結 果

1. 学習会の開催

2021年5月に、東通村漁業連合研究会が開催したスルメイカ漁況の見通しに係る研修会に講師として参加し、スルメイカの資源状態や漁況見通しについて情報提供を行った。

この他に県内各地区で開催予定であった情報会議等は新型コロナウイルス感染対策により中止となった事から、資料配布による情報提供を行った。

2. 漁獲動向調査

(1) 凍結スルメイカ

八戸港における凍結スルメイカの漁獲動向は、1999年漁期から2006年漁期まで横ばいであったが、2007年漁期以降減少に転じ、2015年漁期に10,000トンを下回り、2021年漁期は2,251トンと前年漁期を上回ったが、依然として極めて低調であった（図1）。

(2) 近海スルメイカ

2021年の全海域の合計水揚量は803トンで、前年比、近5年平均比とも40%であった（図2）。

海域別にみると、日本海（小泊・下前・鯨ヶ沢・深浦港）の水揚量は322トンで、前年比113%、近5年平均71%であった。津軽海峡（大畑港）の水揚量は66トンで、前年比61%、近5年平均比34%であった。太平洋（白糠港）の水揚量は178トンで、前年比31%、近5年平均比34%であった。太平洋（八戸港）の水揚量は238トンで、前年比23%、近5年平均比25%であった。

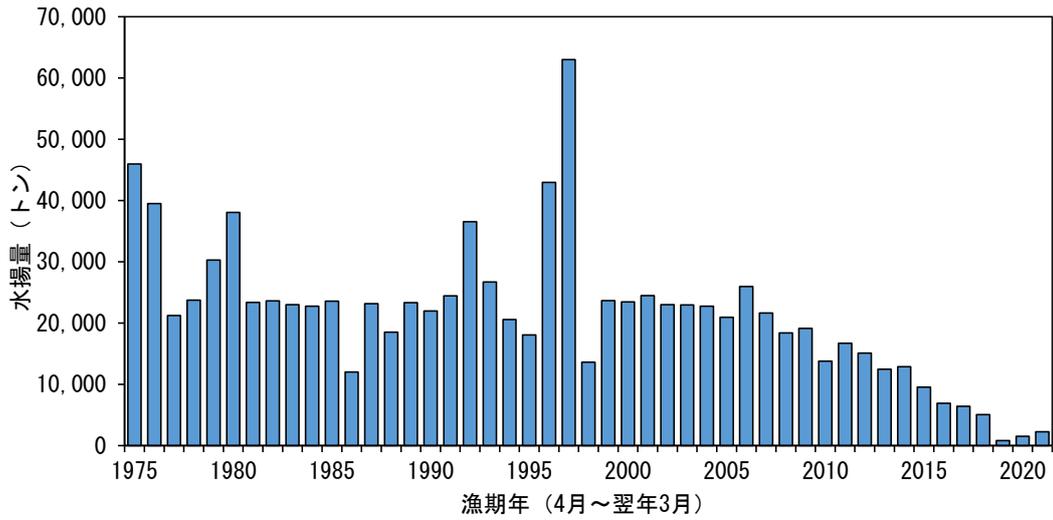


図1. 八戸港における沖合スルメイカ（船凍）の水揚量の推移

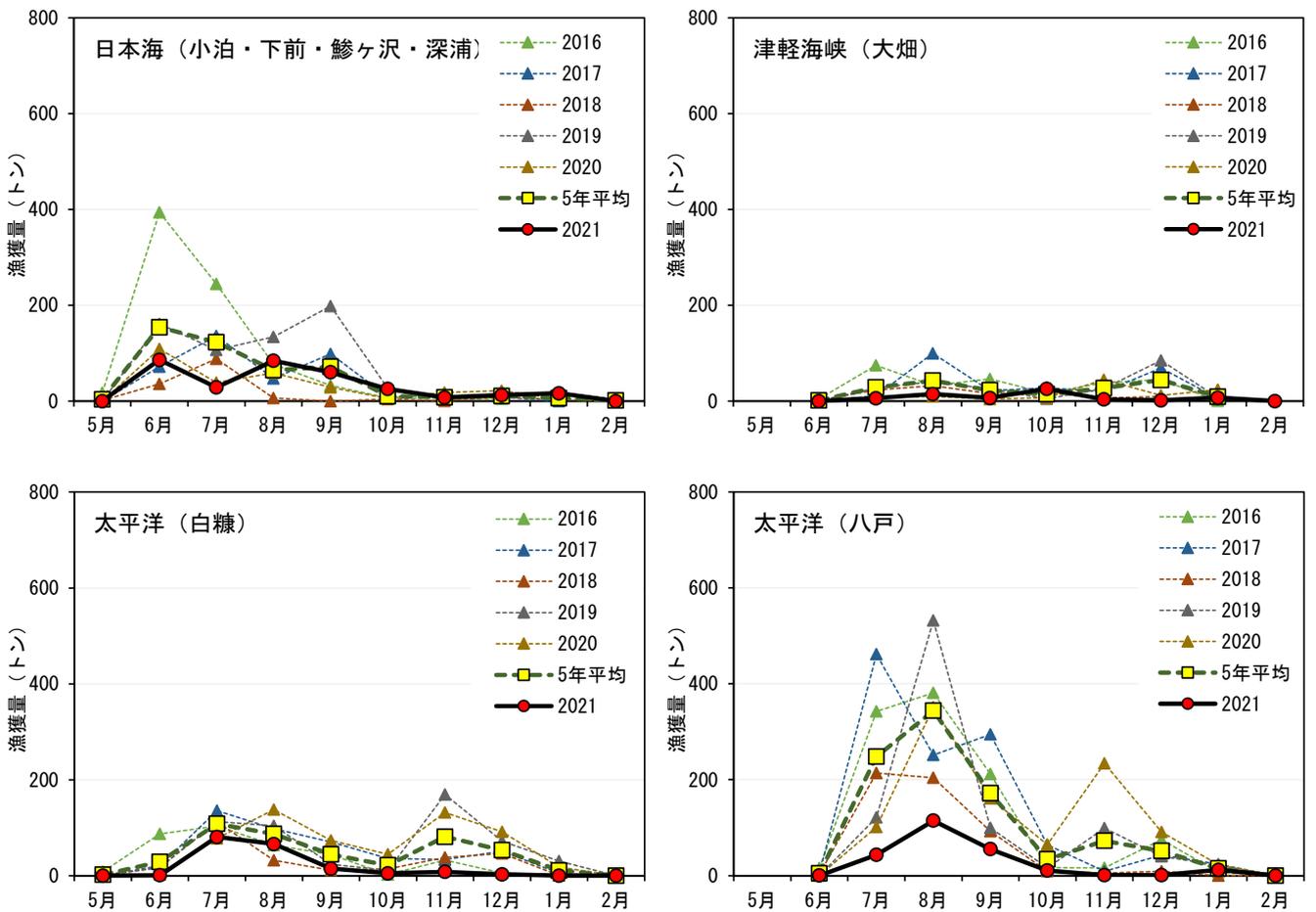


図2. 県内主要港における近海スルメイカ（下水）の水揚量の推移

発表誌：令和3年度イカ類漁場開発調査資料第46号及び外洋性イカ（スルメイカ・アカイカ）に関する基礎資料集 令和5年9月予定